



消費生活の中で、事業者とトラブルになり困ったことはありませんか？
このようなときは、役場産業振興課に消費生活相談窓口がありますので、お気軽にご相談ください。

○相談できること

電話勧誘販売や訪問販売などの、商品や契約に関するトラブル、悪質商法の被害に遭った、ある製品を使ったら怪我をした、などの消費生活に関するトラブル。

○相談するときは

相談員が詳しくお話を伺いますので、契約書やパンフレットなどの全ての書類を用意しておきましょう。インターネット通販の場合は、事業者からのメールや、証拠となる広告の画面を保存しておくようにしましょう。トラブル発生までの経緯をまとめたメモがあるとよりスムーズです。

消費生活について困った時は、こんなことを相談してもいいのかな？と悩んでしまうかもしれませんが、トラブルにあった時は一日でも早い相談が解決のカギとなります。

相談の秘密は厳守いたします。一人で悩まずに早めに相談して下さい。



八峰町消費生活相談員
おおつき まい
大槻 麻衣

- 八峰町消費生活相談窓口（産業振興課） TEL: 0185-76-4605
E-mail: sangyo@town.happou.akita.jp
- 秋田県生活センター北部消費生活相談室 TEL: 0186-45-1040

山火事防止統一標語

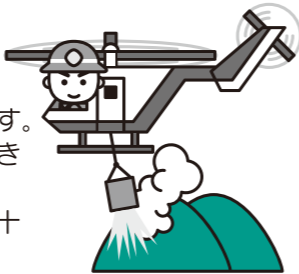
「山火事を 防ぐあなたの 心がけ」

原野・林野火災にご注意！！

【野焼き（ゴミの焼却含む）は禁止されており、罰せられます】

林野火災の原因は、約6割がゴミ焼き等から延焼拡大した人的要因によるものです。昨年は、八峰消防署管内でも林野火災が発生し、ほかにもゴミ焼きや枯れ草焼きによる通報により、消防車が出動した事例が多く発生しております。

この時季は、空気が乾燥し火災が起こりやすくなりますので、次のような点に十分注意しましょう。



【林野火災防止のための注意点】

- 枯れ草等のある火災が起こりやすい場所では、火気を使わないこと。
- 喫煙は、指定された場所で行い、吸いながらは必ず消すとともに、投げ捨てないこと。
- 火気の使用中はその場を離れず、使用後は完全に消火すること。
- 各自のゴミは、指定された場所に捨てるか持ち帰ること。
- 火気を使用する場合は、周囲の可燃物の状況に十分注意するとともに消火用の水等を必ず用意すること。
- 行事等により火入れを行う際は、市町村長の許可を必ず受けるとともに、あらかじめ必要な防火設備をすること。
- 強風時および乾燥時には、火入れをしないこと。
- 児童等による火遊びはさせないこと。

■問合せ先 八峰消防署 ☎76-3119

八峰白神ジオパーク

連載134回



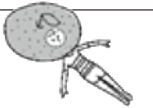
事務局

八峰町産業振興課 ジオパーク推進係
☎0185(76)4605 FAX 0185(76)2203
HP <http://geopark.town.happo.lg.jp/>



白神の恵みに生きる

地域の人の話を聞いて、
大地と自然と人のつながりを考えます



【樹齢400年のシナノキを語る】



話をしてくれた人

柳川 宣史さん 俳号 大亀

昭和22年3月生まれ。仲峰山長泉寺住職（19代目）およびみのりの吟社代表。昭和60年から長年に亘り峰浜地区の子ども達に俳句を指導し“俳句の先生”として有名。

●長泉寺とシナノキ

長泉寺には樹齢400年とも言われている大きなシナノキがありますが、長泉寺自体が明治26（1893）年12月8日に全焼して、過去帳等書いた物が全然残っていません。初代の住職が八森の松源院の2代目舜庵宗堯という和尚さんで、その方は三種町下岩川地区の見性寺も開いており、見性寺は天正元（1573）年に建てられたという書物が残っています。だからこの寺も同じ頃に開かれたのでしょう。そして、その方が亡くなったのが慶長16（1611）年7月4日です。それまでの間にシナノキが植えられたのだでしょうといわれています。

今の本堂は昭和10年から再建して昭和15年くらいまでで完成したことになります。

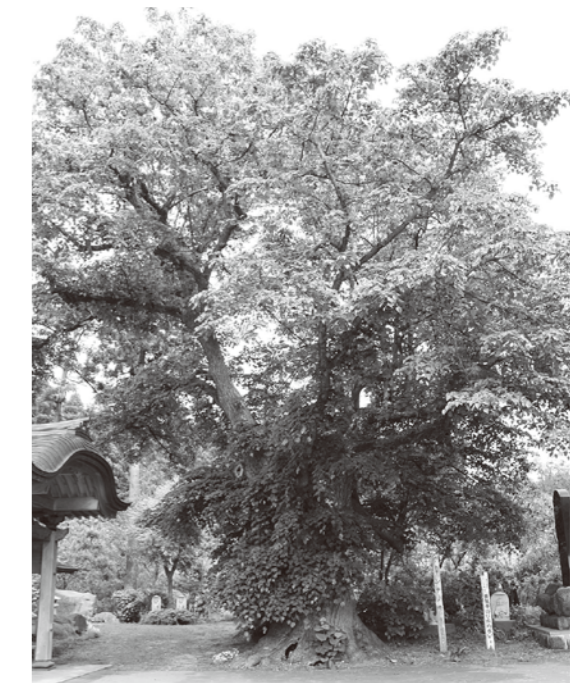
菩提樹という木はお釈迦様がこの大きな木の下で悟りを開いたことからこの名がついています。シナノキと菩提樹は葉や実が似ていて、当時の住職は菩提樹としてシナノキを植えたのだでしょう。

●俳句は自分で思ったことを5・7・5に！

俳句は、祖母の影響で始めました。現在は、子どもの俳句指導や仲間達との句会を楽しんでいます。俳句はハードルが高いイメージがあるかもしれませんが、子ども達には、「は」と驚いたなあ、「い」いなあ、「い」つもと違うぞ、「く」すくす笑えるなあということを俳句にするように教えています。

子ども達には「俳句手帳」を各自1冊持っていて、主に夏休みや運動会が終わった後、山登り体験などを自由に書いてもらっています。その後、手帳の1句1句に目を通すのですが、いいところに目を付けているな、なるほどと思わされます。

昔は俳句を「俳諧」と言ったのです。これは滑稽、面白いという意味です。で、あんまり当たり前だと面白くない。それを5・7・5にまとめる。松尾芭蕉の言葉で、「俳諧は三尺の童にさせよ」って言葉があって、三尺って1mくらいです。小さな子どもの考えや見方でやると俳諧はいいんですよという教えます。自分の思った言葉だからこそ面白いんです。



八峰町の天然記念物にも指定されているシナノキ（夏撮影）